



主に年配の男性を襲う肺炎 レジオネラ症にご注意!

令和元年 9月 11日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

感染症発生動向速報

(令和元年 第36週分・9月2日～9月8日)

《インフォメーション》

●レジオネラ症

レジオネラ症の県内の年間報告数は、近年30～45件程度で推移していますが、今年には既に37件報告されています。**患者の年齢・性別には偏りがあり、50歳以上の男性が患者全体の7割以上を占めています**(9月8日現在、図参照)。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症です。もともと土壌や水環境に存在する菌ですが、自然環境中での菌数は少ないとされています。しかしながら、水温が20～45℃で停滞する人工的な環境水(ビルの空調システムの冷却塔水や循環式浴用施設

の浴用水など)は、衛生管理が不十分な場合、レジオネラ属菌の増殖の温床となります。人は、主にレジオネラ属菌を含んだ水しぶきや土ぼこりを気道から吸い込むことで感染します。

レジオネラ症の主な病型として、重症の肺炎を引き起こすレジオネラ肺炎と一過性の症状を呈するポンティアック熱が知られています。レジオネラ肺炎は全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状に始まり、咳や38℃以上の高熱、悪寒、腹痛、呼吸困難が見られるようになります。中枢神経系の症状や下痢が見られるのもレジオネラ肺炎の特徴とされています。早期に有効な抗菌薬治療が開始されないと死に至る場合もあります。一方、ポンティアック熱は、突然の発熱、悪寒、筋肉痛などの症状が見られます。

レジオネラ症は、早期に診断して適切な治療を開始することが重要です。**医療機関においては、尿中抗原キットを用いた迅速診断を行い、早期にキノロン系薬もしくはマクロライド系薬による抗菌薬治療が必要です。**

《全数報告の感染症》

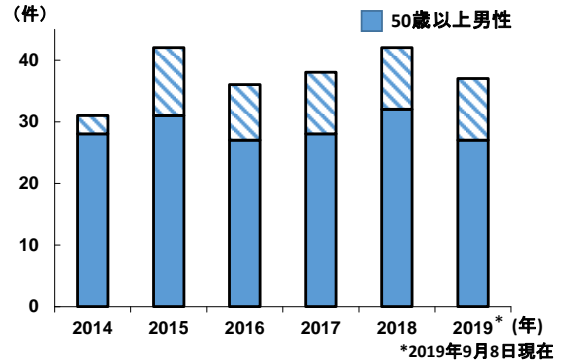
- 二類感染症 結核 1件(70歳代、男性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件(10歳代、男性、O型不明、VT2)
- 四類感染症 レジオネラ症 1件(70歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 アメーバ赤痢 1件(第34週診断分:40歳代、男性、腸管アメーバ症)
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件(80歳代、女性)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 1件(80歳代、男性)
- 梅毒 2件(①第35週診断分:40歳代、女性、無症候 ②40歳代、男性、無症候)
- 百日咳 7件(①第33週診断分:40歳代、男性 ②第34週診断分:10歳代、男性 ③～⑤全て10歳代、男性 ⑥10歳代、女性 ⑦30歳代、女性)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	5.07(↑)	2.90
2位	RSウイルス感染症	4.10(↑)	2.48
3位	手足口病	1.52(↑)	0.69
4位	伝染性紅斑	1.41(↑)	1.17
5位	ヘルパンギーナ	1.31(↑)	0.62
6位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00(↓)	1.24

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

レジオネラ症の報告数(富山県)



○感染症発生動向調査報告状況（令和元年第36週 令和元年9月2日～令和元年9月8日）

分類	疾患	今週報告分（第36週）						累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
二類感染症	結核					1	1	20	10	37	24	35	126	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症			1			1		1	6	4	7	18	
四類感染症	E型肝炎							3		1			4	
	A型肝炎							1					1	
	つつが虫病							1					1	
	デング熱											1	1	
	レジオネラ症				1		1	2		13	8	14	37	
五類感染症	アメーバ赤痢											4	4	
	ウイルス性肝炎									1			1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症					1	1			4	1	3	8	
	急性弛緩性麻痺									1			1	
	急性脳炎											2	2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2	3	6	11	
	後天性免疫不全症候群											6	6	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									1	2	2	5	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1					1	1	1	8	8	8	25	
	水痘（入院例）							1	2			5	8	
	梅毒					1	1	1		2	1	14	18	
	播種性クリプトコックス症											1	1	
	破傷風									1			1	
	百日咳			1	3	1	5	1	5	69	56	95	226	
	風しん								1			3	4	
	麻疹									1	2		3	
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ	1 0.14	4 0.80	3 0.23		5 0.31	13 0.27	1,428	924	3,157	1,691	3,697	10,897	
	RSウイルス感染症	4 1.00	2 0.67	49 6.13	19 4.75	45 4.50	119 4.10	19	57	157	66	288	587	
	咽頭結膜熱	3 0.75		4 0.50		7 0.70	14 0.48	161	22	232	50	189	654	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2 0.67	11 1.38	2 0.50	14 1.40	29 1.00	109	116	584	242	990	2,041	
	感染性胃腸炎	18 4.50	14 4.67	35 4.38	3 0.75	77 7.70	147 5.07	998	796	1,268	471	2,996	6,529	
	水痘					2 0.20	2 0.07	19	19	45	11	236	330	
	手足口病	10 2.50		4 0.50	1 0.25	29 2.90	44 1.52	183	220	1,021	264	1,171	2,859	
	伝染性紅斑	7 1.75	2 0.67	7 0.88	4 1.00	21 2.10	41 1.41	122	61	426	117	531	1,257	
	突発性発しん		1 0.33	3 0.38	2 0.50		6 0.21	26	31	162	37	141	397	
	ヘルパンギーナ	8 2.00	1 0.33	8 1.00	4 1.00	17 1.70	38 1.31	127	100	241	63	229	760	
	流行性耳下腺炎							4	7	8	1	20	40	
	急性出血性結膜炎				1 1.00		1 0.14					13	13	
	流行性角結膜炎		1 1.00				1 0.14	1	10	29	28	7	75	
	細菌性髄膜炎											4	4	
	無菌性髄膜炎							2				1	3	
	マイコプラズマ肺炎			1 1.00			1 0.20		6	3			9	
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）							1		8	7	2	18	
	インフルエンザによる入院患者（*）													0

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和元年第36週(9月2日)～の集計です。